

令和元年も早や師走を迎え、近郊のスキー場が一部オープンするなどいよいよ本格的な冬の観光シーズンが始まりました。会員の皆様には今年も当協会の運営に対してご支援、ご協力を賜りましたことに心より感謝を申し上げます。

旭川市が発表した今年度上期の観光入込客数によると、旭川市を訪れた観光客数は3,236,400人で、前年同期よりも3.9%増となりました。市内宿泊延数については549,500泊で1.3%の微増、今年は10連休となったゴールデンウィーク期間中が好天に恵まれ、昨年北海道胆振東部地震の影響により減少した9月の客足も順調だったようです。外国人の宿泊延数は135,957泊で前年同期から微減(△0.5%)。台湾が対前年比122.6%と伸びた一方でタイ(同62.5%)や大韓航空による旭川—仁川線の就航があった韓国(同98.8%)からの入り込みが7月からの日韓情勢の変化などにより鈍化したことも影響したようです。政府は2020年(令和2年)の訪日外国人観光客の目標数を4,000万人とし、それを受けて北海道でも500万人の目標を掲げていますが果たしてどうでしょうか？

当地域の観光の最大の課題は、冬季の入り込みを如何に増やすかということです。当協会としては、引き続き訪日観光客を意識した受け入れ体制の充実に向けて、より良いおもてなしの向上などに取組んでまいりますので、会員の皆様には今後ともご支援ご協力のほど宜しくお願い致します。

旭川観光トピックス

- ▶ 2019年9月、旭川空港が全館改装を終えグランドオープン！
新しいフードコートエリア「そらいち」営業開始

- ▶ 2020年東京オリンピックの競歩とマラソン競技の札幌開催が決定。宿泊施設の予約注文も急増しており、北海道はもとより旭川への経済効果も期待される。

「将来の課題のための日・オーストリア委員会」が開催されました

9月6日(金)に外務省と日・オーストリア委員会が主催する「将来の課題のための日・オーストリア委員会」の第23回会合の公開シンポジウムが星野リゾートOMO7旭川で開催されました。旭川では久々の国際会議。会員の皆様にも多数ご参加いただき、誠にありがとうございました。

公開シンポジウムでは観光と地方経済活性化をテーマに、日本・オーストリア双方の官民による専門家の皆様から基調講演。両国における観光分野での取組み、先進的な事例が紹介され、持続可能な観光のあり方の検討、観光を利用した地方経済活性化の課題等について両国委員の間で活発な意見が交わされました。

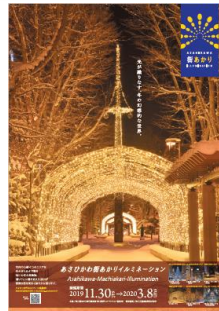
また、その後出席者によるこの大雪山圏域を代表する旭岳の視察がありました。

このシンポジウムをきっかけにオーストリアをはじめとする中・東欧からの旅行者が増加し、今大雪カムイミントラDMOが進めているマウンテンシティリゾート構想のより一層の進展につながればと思います。



公開シンポジウムの様子

あさひかわ街あかりイルミネーションが今年も始まります



点灯期間	2019年11月30日(土)～2020年3月8日(日)
点灯時間	16:30～23:00(※)
会場	買物公園、緑橋通、昭和通、7条緑道

- ※1: 買物公園と7条緑道以外は17時より点灯
- ※2: 2月12日以降は17:30点灯
- ※3: 氷彫刻世界大会の「製作期間」は作業のため点灯しません

今年も旭川の冬の風物詩「あさひかわ街あかりイルミネーション」が始まります。平和通買物公園、緑橋通、昭和通、7条緑道の4カ所に約13万球のイルミが灯ります。

この時期 冬のイルミイベントは道内外各地にあります。厳冬の凜とした空気の中、大雪山系に舞い落ちる真っ白な雪を纏って輝くイルミネーションのきらめきは、旭川ならではの美しい光景です。特にJR旭川駅前、買物公園のモニュメントや7条緑道の光のトンネルはインスタ映えすると海外からの観光客にも大人気！！11月30日にA.S.Hアトリウムで点灯式が行われます。

是非、今シーズンも冬の夜の旭川におでかけください。

旭川駅の観光物産情報センターからみた 令和元年度上期の観光動向について

旭川観光物産情報センターにおける本年度上期の案内者数は、前年比で若干減少傾向にあり、ガイドマップの配布数なども減っています。一方でレンタカーの問い合わせが増えているなど、事前にスマホやWEBで調べて来訪するケースが多くなっているようです。また、旭山動物園や上野ファーム等の観光スポットの他、今年は神居古潭に関する問い合わせが、国内外を問わず増えています。

同センターで実施しているレンタサイクル事業は貸出総数が過去最高の1,527台となりました。クロスバイクよりもシティサイクルの人気が高い傾向にあります。貸出増の要因としては、センターでのレンタサイクルが徐々に知られたことや、センター入口にあるデジタルサイネージによって目につきやすくなったこと、また、事前に協会HPなどで情報を得ていることが考えられます。リピーターも増加しています。市内外の他のレンタサイクルに比べ、料金が非常に安価であることも理由の一つかもしれません。

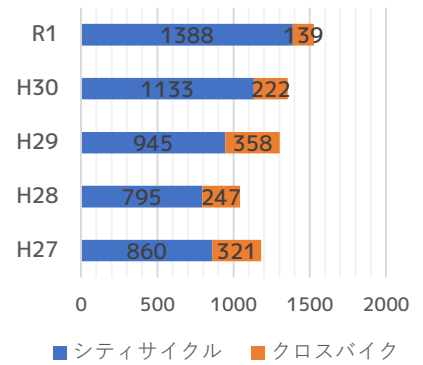
利用者は必ずしも観光目的に限らず、出張のビジネスマンや、市民のほか、長期滞在して病院へお見舞いに通う方など様々です。美瑛、富良野など観光が主目的の他地域とは大きく異なっているのが特徴です。

12月以降に開催される イベント・大会・コンベンション予定

日	大会名
11/30 ～3/8	あさひかわ街あかりイルミネーション
12/7・8	北の地場産フェア
12/8	旭川しんきんジョイントコンサート
1/11・12	日本生物教育学会 第104回全国大会
1/25	銀座食ベマルシェ

日	大会名
2/6～11	第61回 旭川冬まつり
2/6～11	2020年 氷彫刻世界大会
2/6～11	雪あかりの動物園
2/15・16	第15回 障がい者スポーツ指導者全国研修会
3/7・8	第40回 パーサーロペット・ジャパン

表) 観光物産情報センターでの
レンタサイクル貸出し実績



レンタサイクルは毎年GW～10月末で実施している。

- シティ: 500円、3連泊まで利用可
約25台保有だが中古品が多く
老朽化が進んでいるため貸出可能な台数は20台前後
- クロス: 1,000円、連泊不可
約20台保有

旭川で行われている観光事業例

旭川公園ゲストハウス 代表 松本浩司 氏

「旭川の日常に泊まる」

旅や観光のニーズが多様化し、観光とまちづくりの融合が言われている中で、特色あるゲストハウスが増えています。

当麻町寄りの旭川市永山の住宅地で9月に開業した「旭川公園ゲストハウス」も風変わりな宿。「旭川の日常に泊まる」をテーマに、タイニーハウスで暮らすように滞在してもらい、地域と旅行者をつなげています。

松本代表は当地域について「山に囲まれ、まちと農村、人と人が近いからこそ、ローカル資源が豊かなエリアです。個性的な木こりや家具職人、地元の土や木を生かす陶芸家、ブレンドの楽しさを伝える米穀店、屯田兵の頃からの製法で味噌や麴を作る女性…。暮らしを楽しみ、質の高いモノを生む方々に直ぐに会いに行けます。これらの人々を紹介し、時間を共有する体験は大好評。旅の後も余韻が残ります。食文化や家の造り、スナックなど地元の“当たり前”こそ資源。当地の暮らしや人を求める旅行者は益々増える予感がします。諸先輩と旭川エリアの魅力を広め、ファンを増やしていければ幸せです」と日常の中にある魅力について熱く語ってくれました。

協会ホームページからのお知らせ

今年度より協会HPに会員の皆様へ向けた情報発信を行うためのページ「会員向け情報」ページがオープンしました。

セミナーのお知らせ、企画への参加募集などを行っていく予定ですので、ぜひご覧ください。

会員向け情報 | 旭川観光
コンベンション協会

[https://www.atca.jp/
members-information/](https://www.atca.jp/members-information/)



旭川観光・コンベンションニュースの過去号も
会員向け情報ページの「資料」ページに掲載して
います。